

第29回 遠州灘沿岸侵食対策検討委員会

説明資料

令和 8 年 3 月 11 日
静岡県

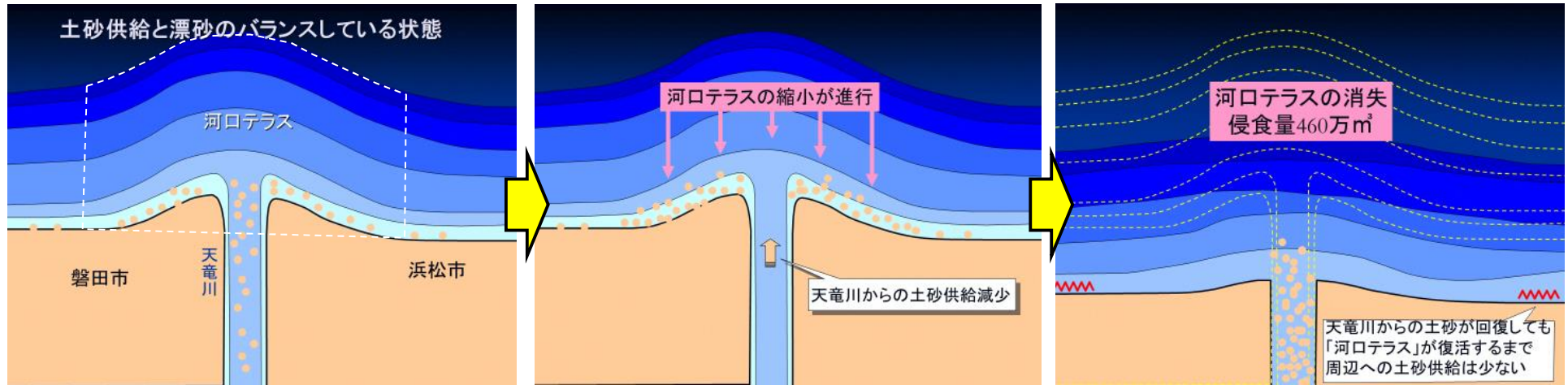
2. 検討事項

- (1) 天竜川河口テラスの経年的な地形変化と河口砂州の大規模後退について
- (2) 天竜川河口砂州の大規模後退に伴い左右岸で進行する海岸侵食への対応
- (3) 河川管理者と海岸管理者の連携について
- (4) 現状評価と対応方針

・既往の侵食対策検討委員会では、河口テラスの地形変化と海岸侵食の関係について、整理されている。

第7回遠州灘侵食対策検討委員会資料
(2006.9)を整理

【河口テラスの地形変化にみる河川からの土砂供給と海岸侵食の関係】

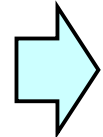


①天竜川からの土砂供給と海域の漂砂がバランスし砂浜が安定している状態

元来、土砂供給量が多い天竜川の河口部では、前面の海底に流出土砂の堆積物でできた地形「河口テラス」が発達していた。

(河口テラスを基盤とする河口砂州も安定して形成されていた。)

土砂供給の減少

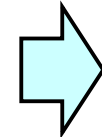


②天竜川からの土砂供給が減少したことにより河口テラスが縮小していく状態

流出土砂は河口周辺に移動しますが、供給量が少ないために河口テラスは小さくなっていく。

(河口テラスの縮小に伴い、河口砂州も縮小・後退していく。)

土砂供給の減少



③河口テラスがほとんど消失している最近の状態

現状では、天竜川からの土砂供給が回復しても、その多くは河口テラスの回復に寄与するため、当面は、周辺海岸への土砂供給の寄与は少ないものと考えられる。

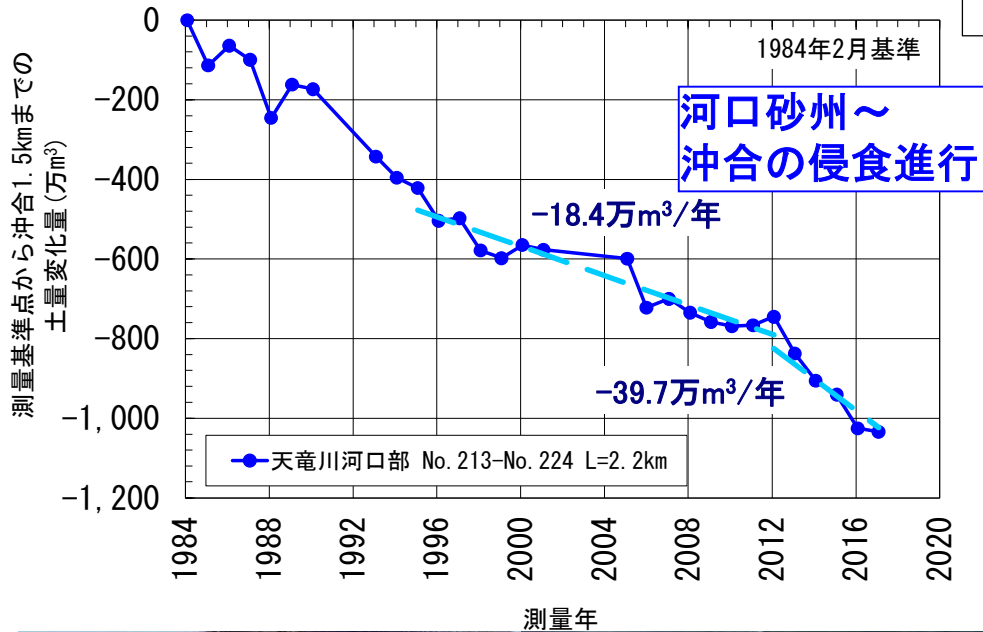
(河口テラスの消失により波浪の減衰効果が失われ、波の作用による上流側への土砂の打ち込みが卓越したことが、現在の大規模後退の直接的な要因となっている。)

海岸への土砂供給を回復するためには、河口テラスの回復が必要

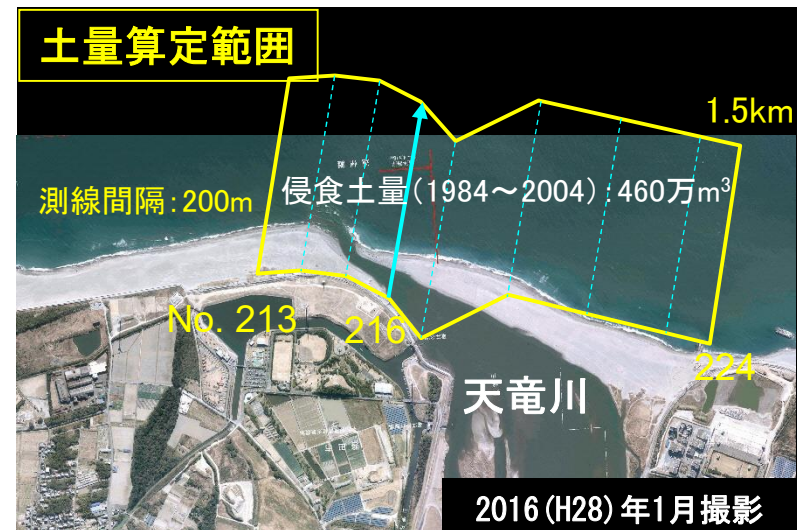
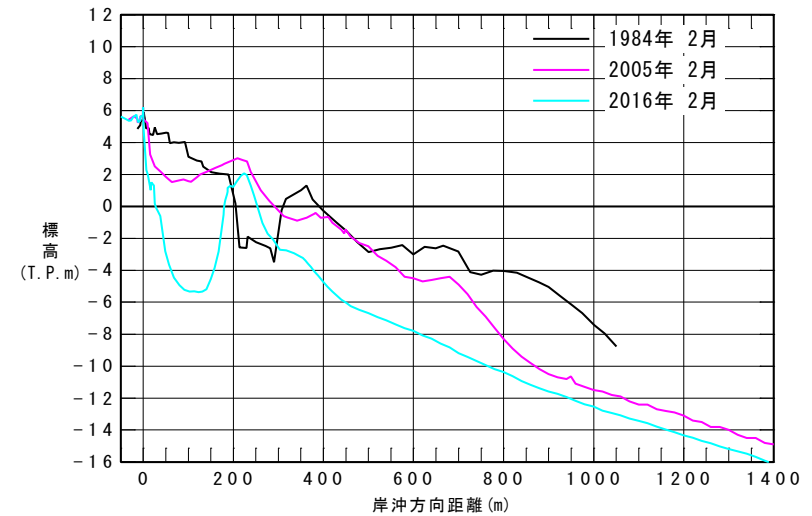
【既往の地形変化(天竜川河口部の土量変化、断面変化)】

- ・深淺測量を開始した1984年以降、陸上の砂州だけでなく、沖合の河口テラスも侵食が進行。
- ・2025年度から同じ測線での測量を再開した。河口砂州の上流側への移動に伴い土量算定範囲の見直しが必要。

第20回遠州灘侵食対策検討委員会資料編 (2018. 10) に加筆



天竜川河口 No. 216



(1) 天竜川河口テラスの経年的な地形変化と河口砂州の大規模後退について

【空中写真による砂浜および天竜川河口砂州の面積変化】

2012～2016年にかけては出水時の砂州フラッシュが生じた後に数ヶ月の期間で河口砂州の回復が見られた。2021年～2023年は出水時砂州フラッシュ後の河口砂州の回復が鈍化し、特に右岸側の河口砂州の縮小傾向が続き、浜松五島海岸の突堤東側の河口砂州（汀線）が著しく後退した。2023年台風2号以降は大きな出水は観測されていないが、**右岸側の砂州の縮小と突堤東側の汀線後退が継続している。さらに、2023年以降、左岸側の竜洋海岸でもNo. 214付近の汀線が後退している。**



【空中写真による砂浜および天竜川河口砂州面積変化】

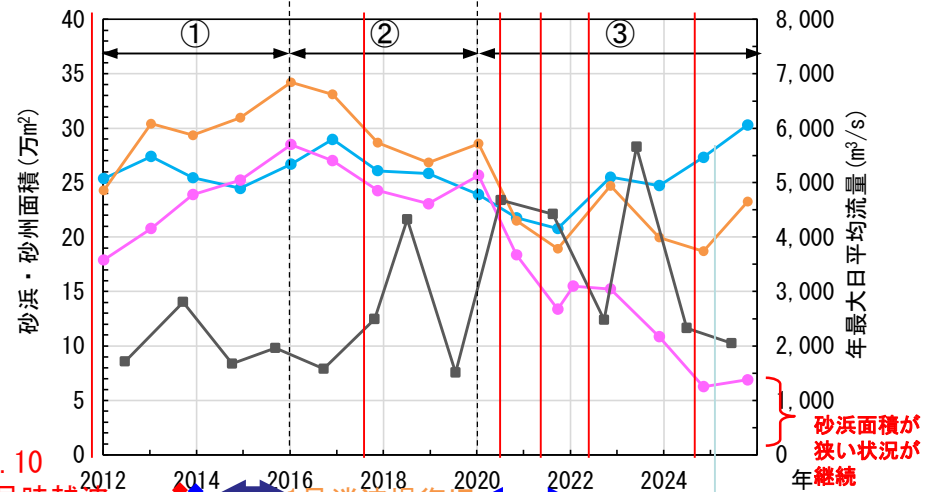
- ① (2012～2016年) 2011年台風15号時の出水により河口砂州がフラッシュしたが、その後、河口砂州の回復が見られ、左右岸合計の砂州面積は増加した。一方、同時期の西側の突堤～旧堤間の砂浜面積はやや減少が見られた。このことを受け、2012年以降、突堤整備と継続的な養浜に加えて根固消波工等の応急対策により汀線を維持・砂浜消失の防止を図っている。
- ② (2016～2020年) 左右岸合計の河口砂州面積は減少したが、突堤～旧堤間は1号消波堤の復旧（嵩上げ）と2015年の突堤整備（延長50m）の効果により1号消波堤背後の汀線が前進した。
- ③ (2020～2022年) **出水による河口砂州のフラッシュが多く、左右岸合計の河口砂州面積の減少が著しい。**
- ③ (2022～2025年) **特に右岸側河口砂州の減少が著しく、2025年には突堤東側への置土を実施。また、左岸側の砂州面積は増加しているが、上流側への砂州の移動に伴い、No. 215から竜洋海岸の離岸堤群上手の汀線が後退し、砂浜面積の減少が継続している。**

◆砂浜と天竜川河口砂州面積の変化



2025年11月

●天竜川河口左岸砂州・砂浜面積 (m²)
●天竜川河口右岸砂州・砂浜面積 (m²)
●天竜川河口砂州面積 (左右岸合計)
■年最大日平均流量 (天竜川鹿島) ←2024以降推算

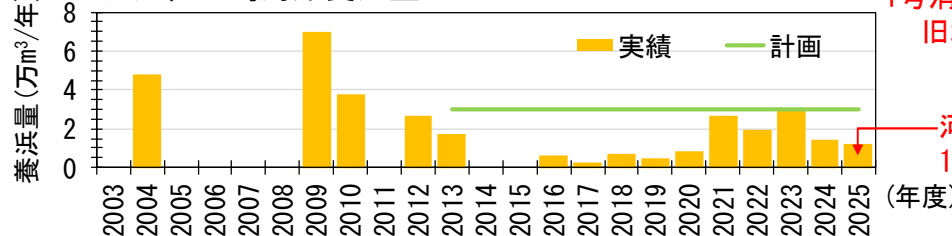


2013. 10 台風第26号時越波
1号消波堤沈下 旧堤被災
1号消波堤復旧 堤防前面 根固消波工拡幅 (汀線付近)
突堤50m (汀線より陸側)
突堤107m (汀線より陸側)

砂浜面積が狭い状況が継続

左岸は河口テラス縮小に伴う砂州の上流側への移動

◆浜松五島海岸養浜量



※グラフ中の赤線は空中写真から判断した砂州フラッシュの時期を示す。

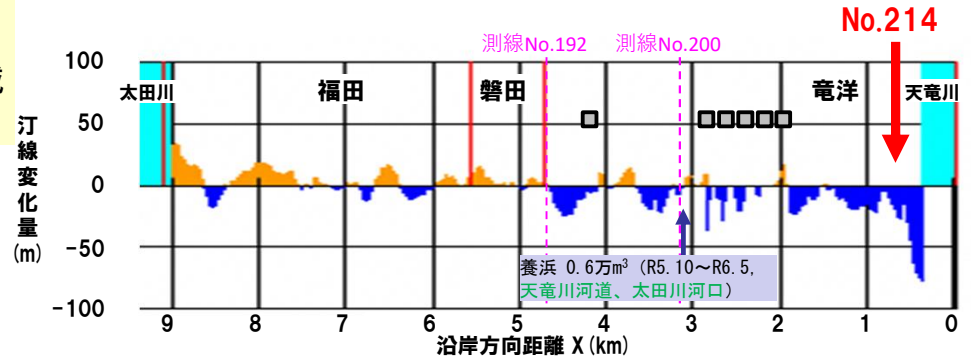
■竜洋海岸における侵食の進行状況(河口付近)

◆No.214の状況 (天竜川左岸側河口付近)

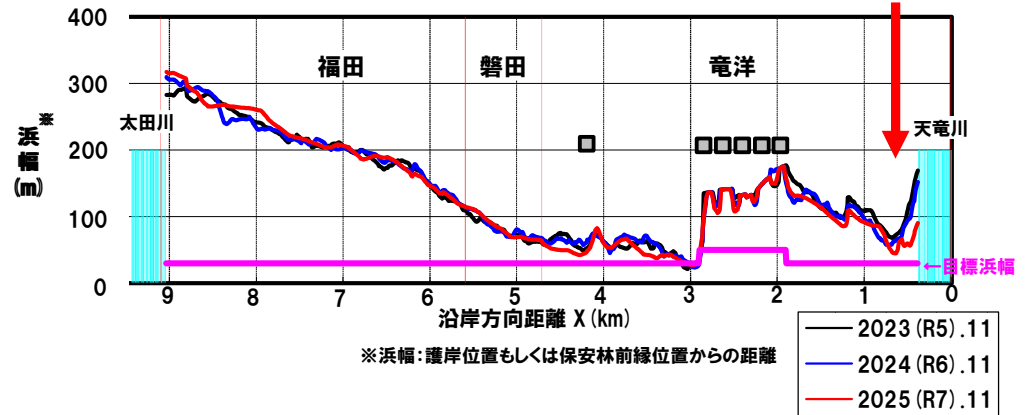
- ・前年に続き、2023(R5)年11月～2024(R6)年11月は、天竜川河口の左岸砂州が後退し、浜幅が64mから54mに減少(-10m)
- ・2024(R6)年11月～2025(R7)年11月は、浜幅が54mから50mに減少。浜幅の顕著な後退範囲が河口方向のNo. 215にも拡大。



2023(R5)年11月～2025(R7)年11月(2年間)



浜幅の沿岸方向分布



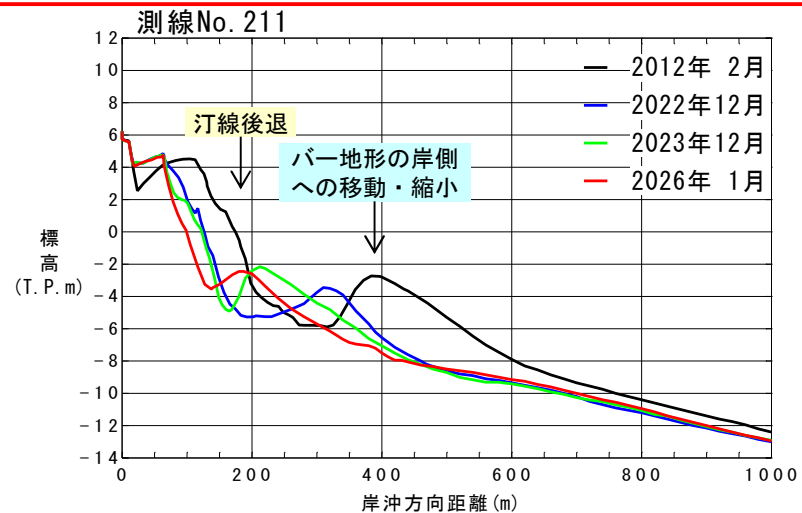
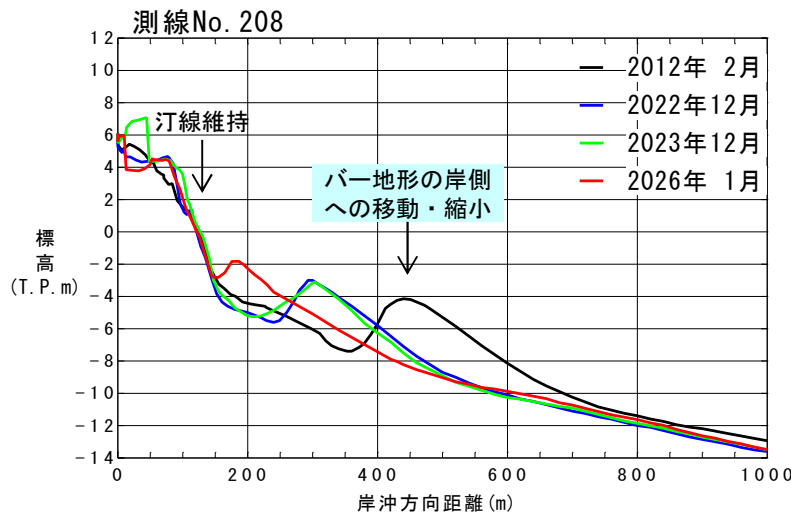
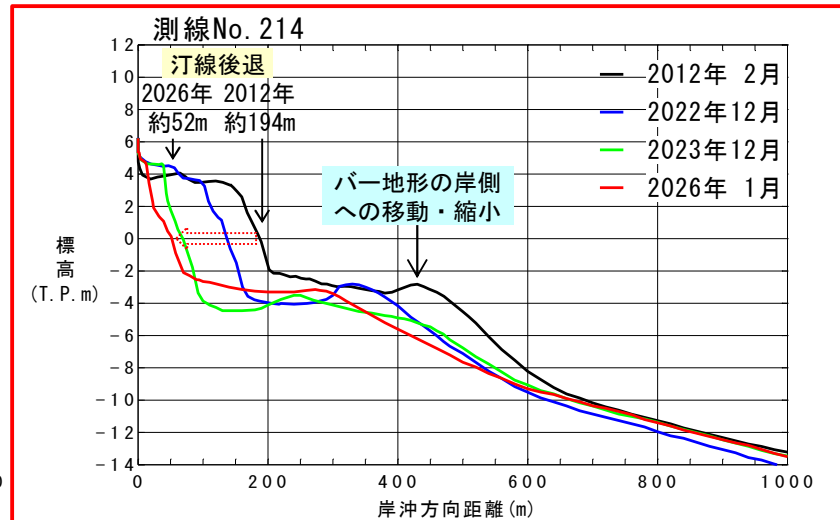
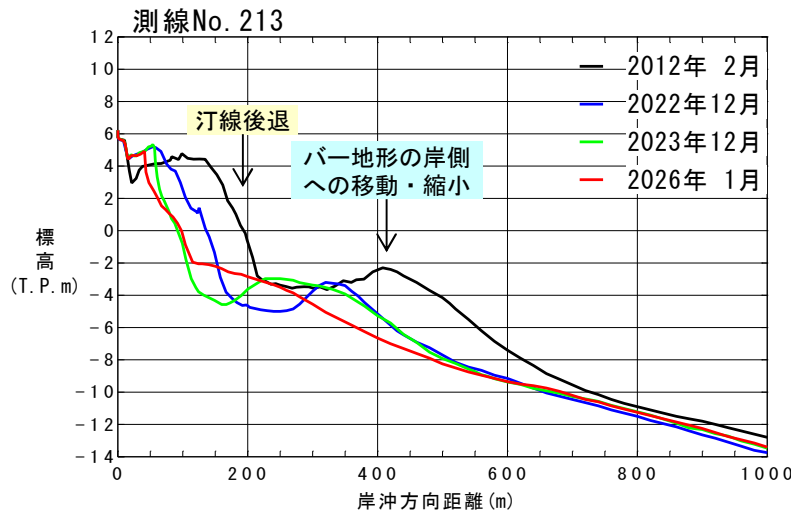
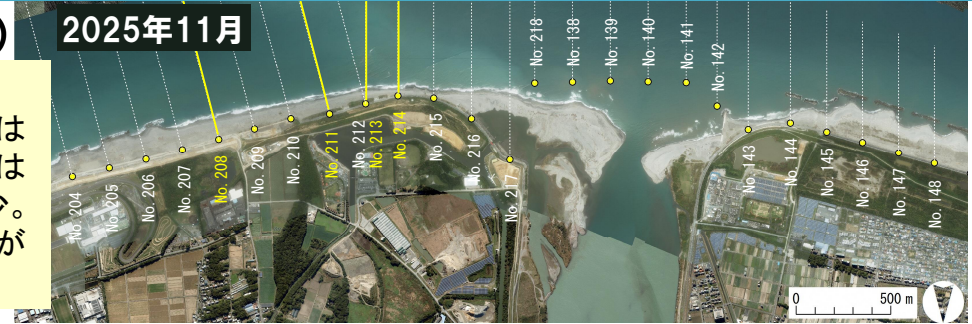
(1) 天竜川河口テラスの経年的な地形変化と河口砂州の大規模後退について

■ 竜洋海岸における侵食の進行状況(河口付近)

◆ No.214周辺の状況 (天竜川左岸側河口付近)

- ・ 2012 (H24) 年2月は約194mの浜幅であったが、2022 (R4) 年12月には浜幅が約138mに減少。さらに、2023 (R5) 年12月にかけて、浜幅は約70mまで大きく後退し、2026 (R8) 年1月時点では約52mまで減少。
- ・ 汀線の後退とあわせて水深5m付近のバー地形も岸側に移動しながら縮小傾向となっている。

2025年11月



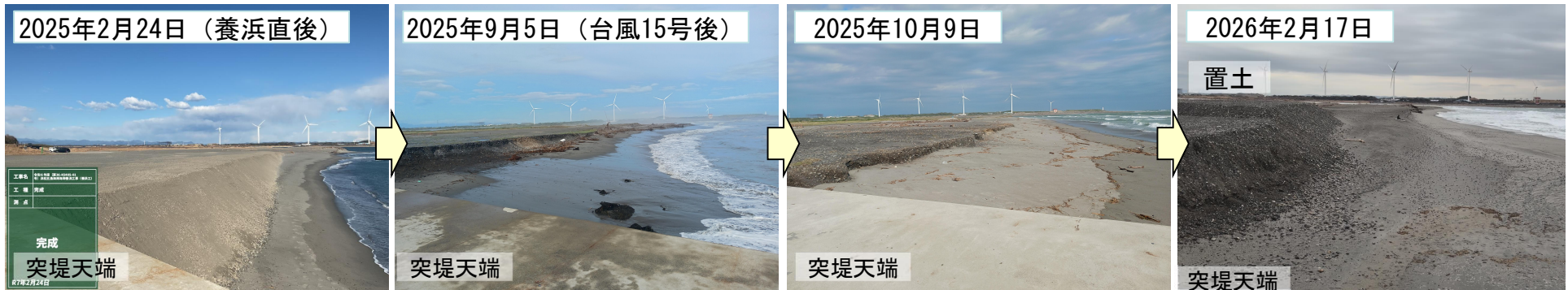
■浜松五島海岸における侵食の進行状況

- ①昨年度の2024年8月に浜松五島海岸突堤基部が露出する状況を確認し、大型土のう、袋詰玉石及び気田川掘削土砂による盛土養浜を実施。2025年9月の台風15号までの間に徐々に盛土が減少。
- ②今年度は、2025年11月～2026年2月に天竜川河道掘削土砂による河口部への置土を実施（計画量1.2万m³）。河口テラスの回復と汀線維持を図る。

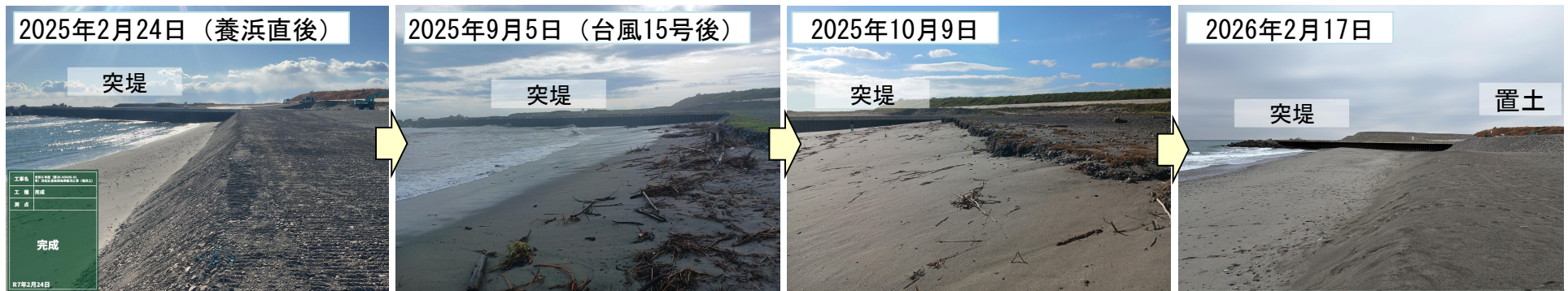
①昨年度：突堤基部への盛土養浜の実施（気田川掘削土砂1.0万m³）

②今年度：突堤基部への置土の実施（天竜川掘削土砂1.2万m³）

○突堤天端から天竜川河口右岸（東側）を撮影



○天竜川河口右岸から突堤（西側）を撮影



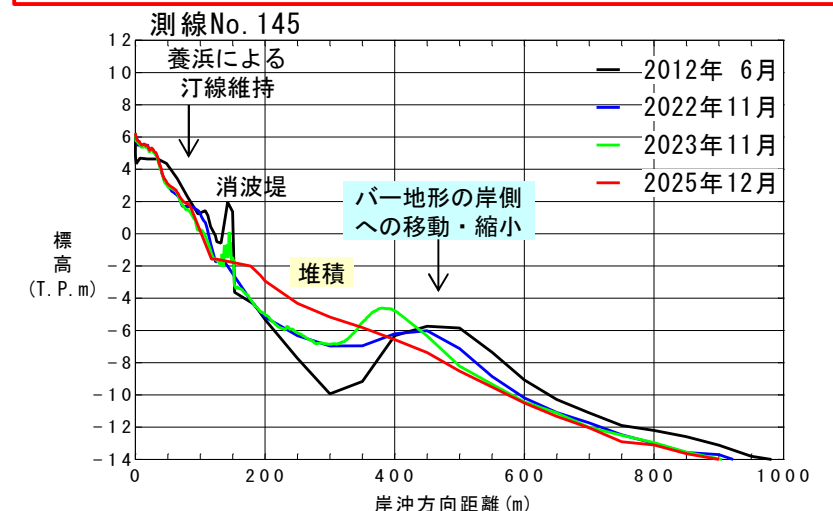
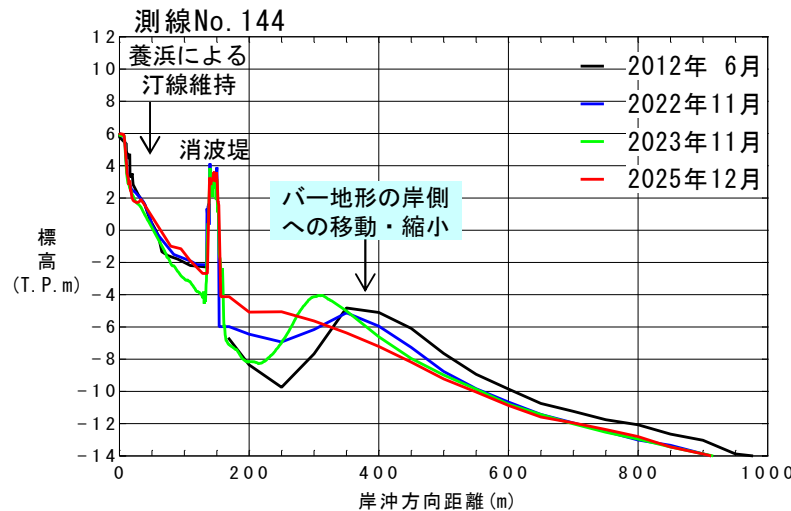
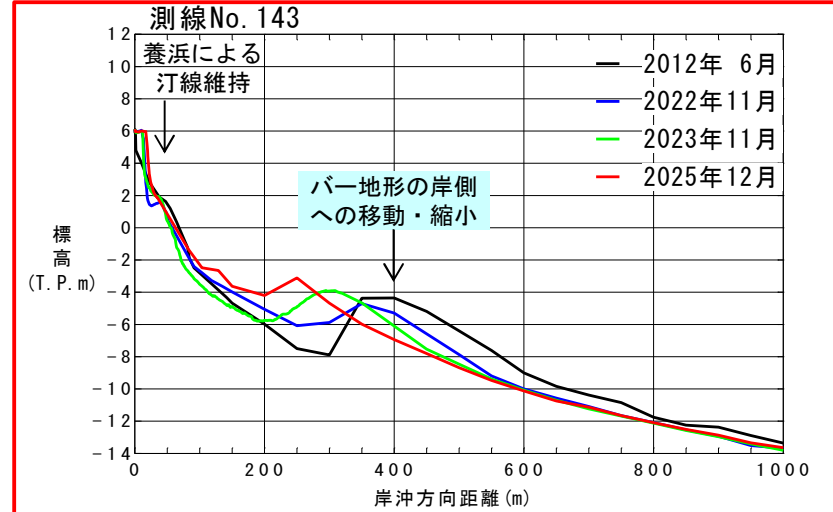
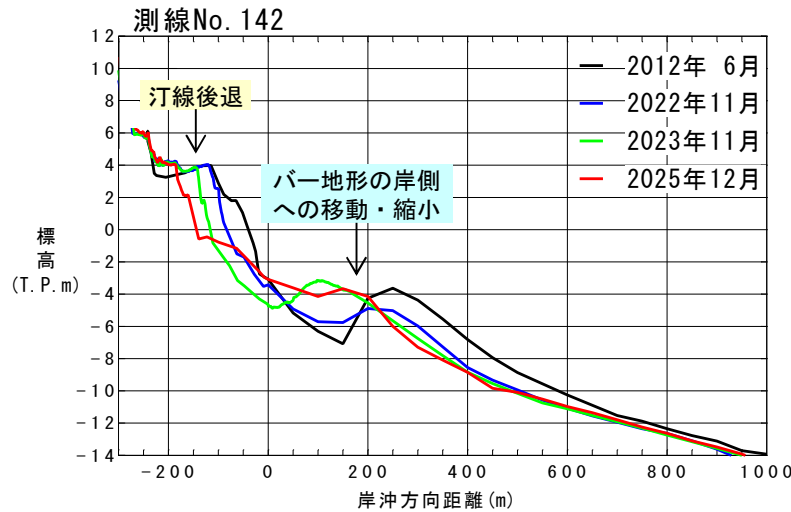
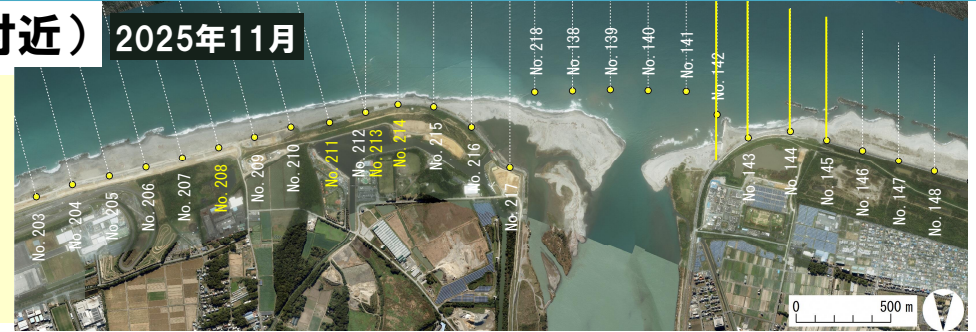
突堤より東側（計画量3,400m³）
突堤より西側（計画量8,600m³）

(2) 天竜川河口砂州の大規模後退に伴い左右岸で進行する海岸侵食への対応

■浜松五島海岸における侵食の進行状況(河口付近) 2025年11月

◆天竜川右岸側河口付近の状況

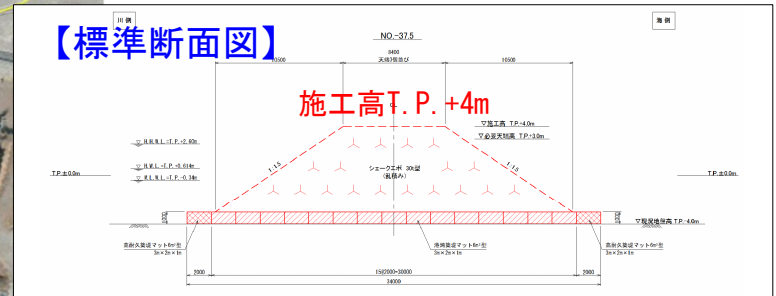
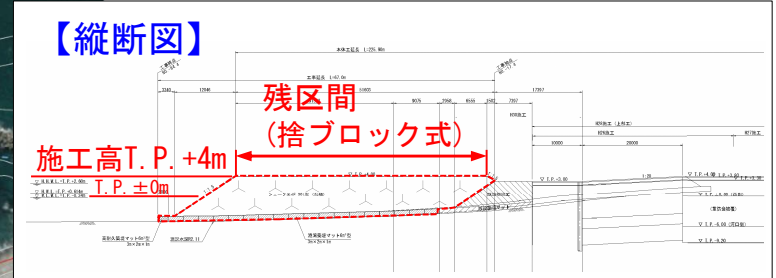
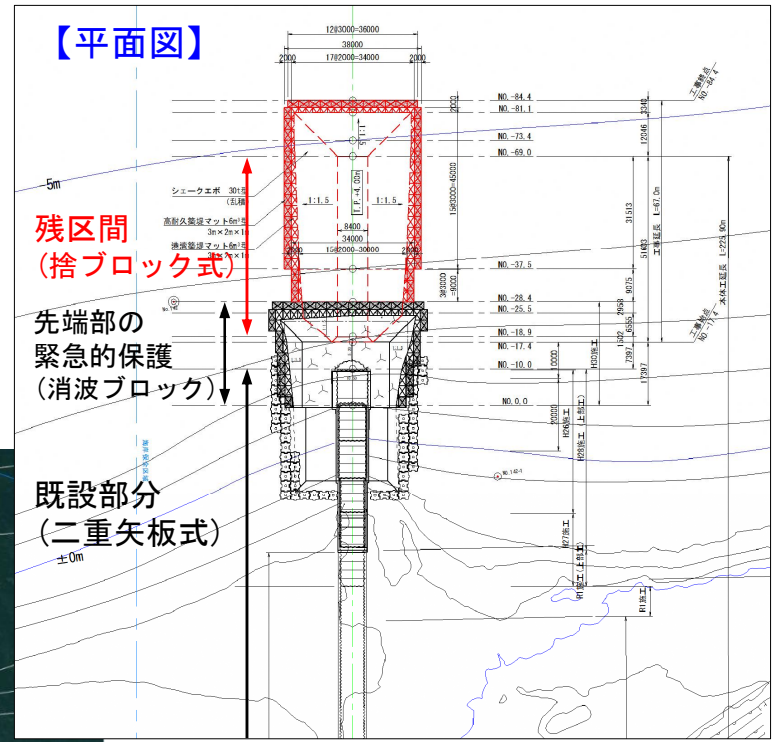
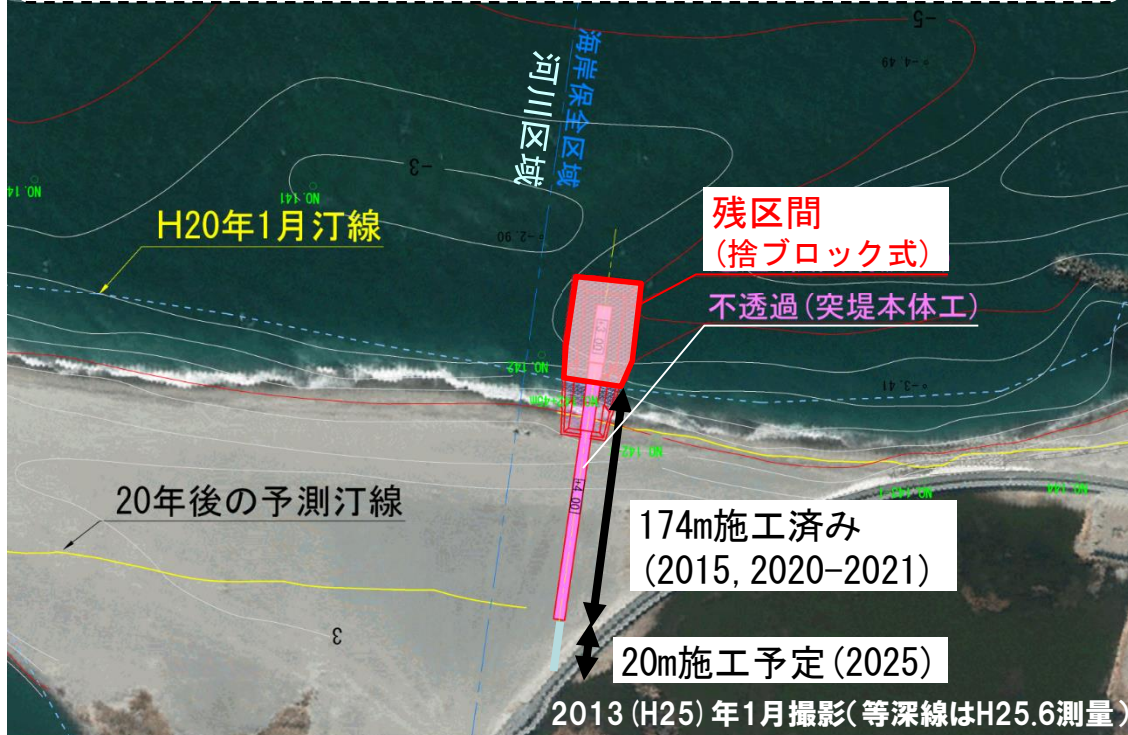
- ・2012(H24)年6月から2025(R7)年12月にかけて、継続的な養浜の実施により汀線は維持し続けている。突堤東側No. 142は河口砂州の汀線が後退。
- ・水深5m付近のバー地形も岸側に移動しながら縮小傾向となっている。なお、2025年12月は比較的に堆積した状態である。



■浜松五島海岸の突堤延伸(沖側)

養浜礫の河口側への流出制御を目的に、先端水深T.P. -4mまで設置する。2026年度よりブロック製作を行い、延伸を進めて行く。

- 突堤整備計画と整備状況
 - ・ 養浜礫の河口側への流出制御を目的に、先端水深T.P. -4mまで設置する計画
 - ・ 計画延長L=226mに対して174mを施工済み（陸側部から先行施工）
- 突堤構造の見直し
 - ・ 突堤の残区間（海側約50m）は突堤設置予定箇所に転石が散乱しており矢板式の突堤を整備することができないため、突堤構造の見直しを検討し、残区間は当初設計の二重矢板式（不透過構造）から捨ブロック式（透過構造）に変更する。

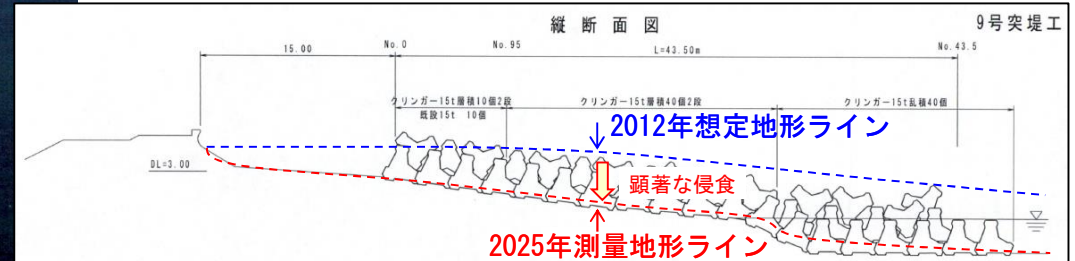


■ 竜洋海岸における侵食の進行状況(天竜川河口左岸No.214付近)



32. 竜洋海岸 撮影 平成24年1月6日

- ・ 竜洋海岸9号突堤縦断面図 (1995 (H7) 年整備)
(堤長43.5m、護岸天端から先端までの距離68.5m)



2025年8月22日 (8月侵食後)

浜崖から海岸堤防
まで最小幅8m

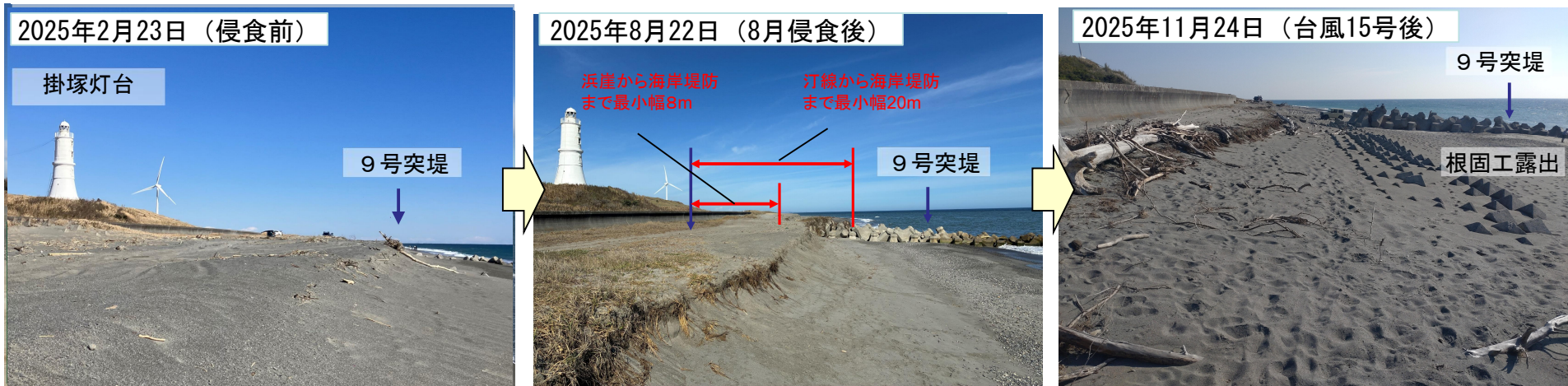
汀線から海岸堤防
まで最小幅20m

9号突堤

■ 竜洋海岸における侵食の進行状況(天竜川河口左岸No.214付近)

- ①2022年11月～2024年11月にかけて、天竜川河口の左岸側砂州が後退し、竜洋海岸No. 214付近の汀線が大きく後退。2025年度は定期深浅測量に加えて高波浪前後のパトロールを行い注視した。
- ②2025年2月時は9号突堤は砂で覆われていたが、8月の侵食により上部の砂が流出し、最小浜幅が20mまで減少した。9月の台風15号後から10月にかけて9号突堤東側の浜崖が後退した。

○天竜川河口左岸から東側を撮影



○天竜川河口左岸No. 214から河口側 (西側) を撮影



■ 竜洋海岸における侵食の進行状況(5号離岸堤下手)

①2024年6月～10月にかけて、5号離岸堤下手の汀線が後退し、護岸基礎工が露出する状況であった。2025年11月時は、4号離岸堤嵩上げによる漂砂の供給と既設盛土養浜の寄与により、護岸基礎工が露出していた部分は浜幅を有する状況であった。

○ 5号離岸堤下手

2024年10月21日 舞阪潮位 T. P. +0.39m



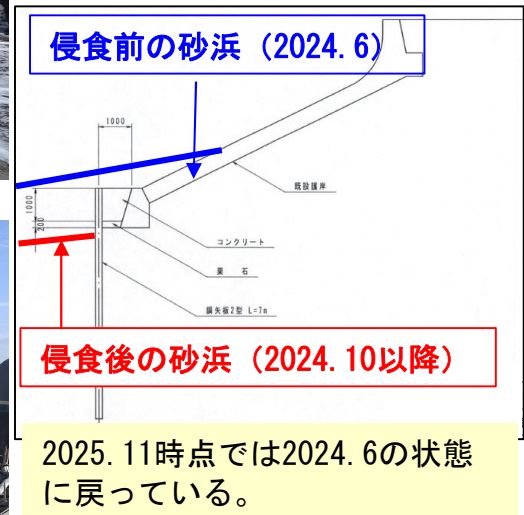
2024年10月21日 舞阪潮位 T. P. +0.39m



2025年11月7日 舞阪潮位 T. P. +0.29m



2025年11月7日 舞阪潮位 T. P. +0.29m



【今後の海岸管理者(県)の対策(案)】

○浜松五島海岸

突堤基部の延伸が完了次第、突堤沖側から河口方向への養浜材の流出防止を図るため、突堤沖側の延伸を行う必要がある。また、河口テラスが回復するまでの期間は海岸への土砂の供給が期待できないため、河口テラス回復と汀線維持のための天竜川河道掘削土砂による突堤周辺への置土(押土)を継続する必要がある。

◆対策(案)

突堤沖側から河口方向への養浜材の流出防止を図るため、**突堤沖側の延伸**を行う。

河口テラス回復と汀線維持のための天竜川河道掘削土砂による突堤周辺への置土(押土)が継続できるよう河川管理者と調整を行う。

○竜洋海岸(河口左岸側No. 214付近)

左岸側の砂州の後退が今後も進行した場合、河口付近(No. 214付近)の汀線後退がさらに進行し、越波等、背後地への被害の発生が懸念される。

◆対策(案)

定期深浅測量に加えて高波浪前後のパトロールを行い、汀線後退が確認され越波の危険性が高い場合は応急対策を実施する(1～3号離岸堤付近の堆積箇所からの応急養浜等)。

※2025年11月時点のNo. 214付近の砂浜幅は約50mであり防護上の必要砂浜幅30mを満足するが、必要砂浜幅を割り込む状況が確認された場合は応急対策の実施を検討する。

○竜洋海岸(5号離岸堤下手側No. 200付近)

養浜実施区間であるが、必要砂浜幅を割り込む時期が多く、侵食が下手に進行することが懸念される。

◆対策(案)

計画養浜量の確保のための調整を引き続き実施していく(緊急を要する際は、1～3号離岸堤付近の堆積箇所からの応急養浜等を検討)。

■天竜川河口砂州への置土(侵食、河口テラスの早期回復対策(案))

【第28回委員会提案事項】

- ・天竜川河口に置土した場合、侵食により浜幅が減少して海岸保全施設への影響が想定される地点に近いことから、早期に砂が供給され、浜幅の維持・回復に直接効果があると考えられる。
- ・洪水によりフラッシュされ自然の分級作用で海岸へ砂分のみが供給され、大粒径の礫は河口テラスや河口砂州の回復に寄与するとともに海岸に供給されにくくなると考えられることから、掘削土砂の土質に左右されることなく、掘削土砂を有効活用できる。
- ・土砂運搬距離が短くなることに伴うコスト縮減や、他管理者との調整を要さず河川管理者のみで工事を実施できることから、経済的かつ効率的である。

■第28回委員会での意見を踏まえた置土候補箇所

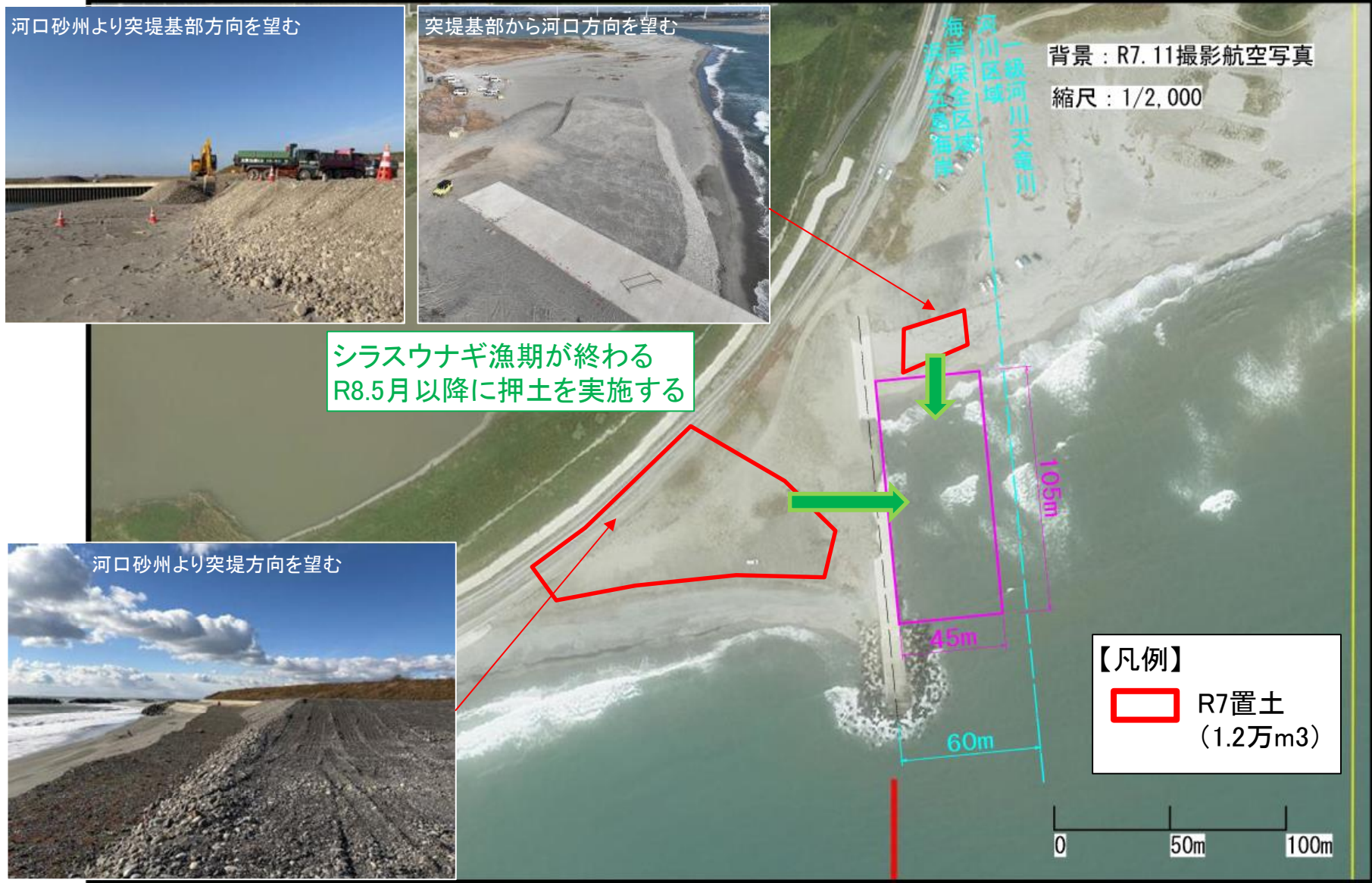


礫分は砂州の基盤+沖の深掘れ区域へ移動し河口テラスを造成

□ : 置土候補地点

■前回委員会での検討を踏まえた浜松五島海岸突堤東側への置土(押土)の実施(R7実施・R8予定)

・前回委員会での検討結果をもとに、浜松五島突堤東側の天竜川河口砂州左岸に、天竜川河道掘削土砂を用いた置土(押土)を実施した(1.2万m³, 2025年10月~2026年2月)。2026年度も突堤東側への置土(押土)を実施予定である。

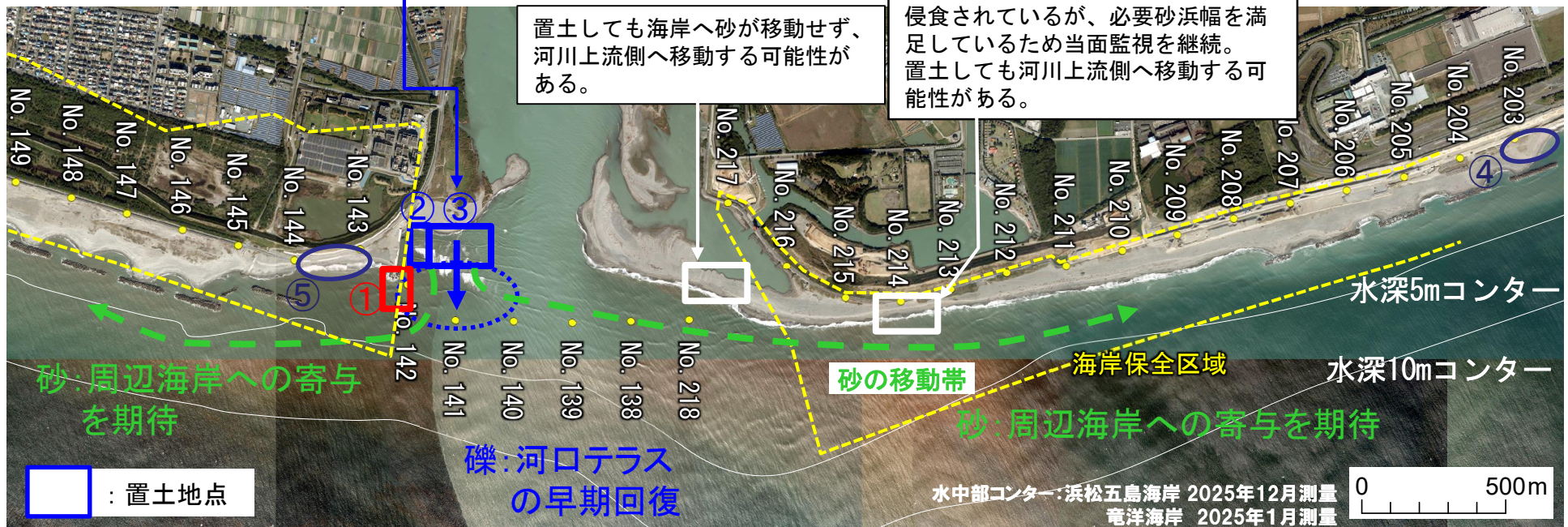


■天竜川河口周辺の侵食対策 優先度

河口砂州の後退により、海岸部の砂浜減少が顕著になっているため、浜松五島海岸では河口砂州と海岸の遮断を最優先に実施する。また、河口テラスが回復するまでの期間は海岸への土砂の供給が期待できないため、河口テラス回復を最優先に実施する。なお、浜松五島海岸突堤西側の浜幅確保には突堤の沖側延伸が必須であり、現状での養浜は養浜材が流出するのみで効果は限定的と考えられる。

優先度	①	②	③	④	⑤
手法	突堤沖側延伸	突堤東側への置土	河口砂州から沖への置土	竜洋海岸への養浜	五島海岸への養浜
目的	河口砂州の後退影響からの遮断	突堤保護 河口テラスへの砂礫供給	河口テラスへの砂礫供給 (砂質分は竜洋海岸への寄与を期待)	浜幅の確保 漂砂下手側への砂供給	浜幅の確保 漂砂下手側への砂供給

○右岸側（五島）は、突堤より東側の海岸区域および河川区域内に置土して、人工的に河口砂州を復元し、波浪により砂州の土砂が水中部へ移動することで河口テラスの早期回復を図る。
 【礫質】河口テラス水中部（T.P. -4m以浅）に留まるため、直接河口テラスの回復に寄与する
 【砂質】波による沿岸漂砂により広域的に寄与することを期待する
 （西寄りからの波浪：竜洋海岸に寄与、東寄りからの波浪：五島海岸に寄与）



■ 浜松五島海岸・天竜川河口での対策

- ・ 海岸管理者による置土と河川管理者による押土を実施することについて調整していく。



(4) 現状評価と対応方針 (1) 遠州灘沿岸
天竜川西側の現状評価と対応方針

- ・浜松五島海岸では、整備中の突堤西側の養浜実施区間で防護上必要な浜幅が不足することがあり、沖合侵食も進行している。突堤西側の養浜実施区間では浜幅が狭い状況が継続しており、西寄りの波浪が卓越した際には当該区間の土砂が河口へ移動し、侵食がより進行することが懸念される。また、河口砂州（河口テラス）縮小に伴う突堤東側の汀線後退が著しいため、河口テラスの回復と汀線の後退防止を目的に2025年12月から2026年2月に天竜川河道掘削土砂による置土を実施した（河川管理者：1.2万m³/年）。
 ⇒来年度も天竜川河口テラスの回復と汀線の後退防止を目的に置土を実施していくよう河川管理者と調整を行う。
 ⇒養浜実施後のモニタリングとあわせ、粗粒材を基本とした養浜を継続実施する（計画養浜量3万m³/年以上）。
突堤の延伸整備を実施する（基部の延伸工事が完了次第、沖側を延伸する（TP-4mまで））。
- ・浜松篠原海岸では、防護上必要な浜幅は確保されているが沖合侵食が進んでいる。近年、馬込川導流堤西側から離岸堤周辺でやや汀線が後退し、海浜断面積の減少が見られている。
 ⇒養浜実施後のモニタリングとあわせ、**養浜を継続実施する（計画養浜量5万m³/年以上）。**

		浜松五島	浜松篠原	舞阪	浜名港	浜名港 (今切口沖合)	新居	湖西
R7	現状評価	<ul style="list-style-type: none"> ・天竜川河口テラスが縮小 ・消波堤、離岸堤の沖合で侵食が進んでいる ・養浜実施区間で浜幅が狭い状況が継続している 	<ul style="list-style-type: none"> ・全域で目標浜幅を確保 ・汀線変化は比較的少ないが、海浜断面積が過去の被災時の値を下回っている区間がある ・沖合侵食が進んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・砂浜幅100m以上を確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・航路上に船舶の航行に支障となる浅瀬の形成等は見られない 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的には沖合でやや侵食が見られるものの、汀線は安定傾向 		
	被害	・確認されず						
対応方針		<ul style="list-style-type: none"> ・河口テラス回復のための置土の実施 ・継続的な養浜及びモニタリングを実施 ・突堤の延伸 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な養浜及びモニタリングを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的なモニタリングを実施 				

(4) 現状評価と対応方針 (1) 遠州灘沿岸
天竜川東側の現状評価と対応方針

- ・ 竜洋海岸では5号離岸堤下手と6号離岸堤下手で浜幅が狭い状況が継続している。
 ⇒ 4号離岸堤嵩下げによる沿岸漂砂移動の促進対策を実施済み（R6.5～R6.6）である。砂浜回復のためには計画養浜量の確保が必要である。さらに、天竜川河口東側の汀線後退が進行しており、モニタリングを強化していく。
- ・ 浅羽海岸では局所的な汀線後退が見られ高波浪時に浜崖が拡大する状況が続いている。
 ⇒ サンドバイパスシステムは目標土砂移動量8万m³/年を下回る状況が続いているため、応急対策の実施（令和4年度～6年度）と併せてシステムの最適化に向けた検討を行っており、土砂移動量の回復を目指す。
- ・ 浜岡海岸では2023年時から2024年時にかけて全域で一時的に汀線が前進したが2025年時は汀線が後退している。
 ⇒ 浜岡砂丘より東側の海岸は砂浜が狭い状態が継続しているため、モニタリングを継続し、海浜状況を確認していく。
- ・ 御前崎海岸では2023年時から2024年時にかけて全域で一時的に汀線が前進したが2025年時は汀線が後退している。
 箴川～中西川および東端は砂浜が消失し、白羽地区ではサンドリサイクル養浜により砂浜を維持している状態である。
 ⇒ 白羽地区では利用面・環境面を考慮した養浜箇所の変更の検討を行いながら継続的な養浜を実施するとともに、各管理者間で情報共有し対応を検討する。

海岸		御前崎	浜岡	大浜・大須賀	浅羽	福田漁港	福田	磐田	竜洋
R7	現状評価	・2024年時に比べ2025年時の汀線はやや後退しており、 目標浜幅30m以上を維持していない区間がある		・浜幅50m以上を維持	・目標浜幅30m以上を維持しているが、 2020年時の浜崖拡大範囲では浜幅回復が見られない	・福田漁港防波堤西側で堆積傾向が継続	・ 天竜川河口テラスが縮小 。2025年時は河口部の汀線の後退が継続 ・離岸堤下手で目標浜幅30mが不足している ・ 5号離岸堤と6号離岸堤下手で浜幅些少が継続		
	被害	・確認されず							
対応方針		・ 養浜箇所の変更を検討し、継続的な養浜を実施 ・漂砂制御施設の整備を検討する	・継続的なモニタリングを実施	・継続的なモニタリングを実施	・ 継続的なサンドバイパス養浜を実施 。 砂浜些少部は 直接養浜 を実施	・継続的なモニタリングを実施	・ 河口テラス回復に向けた右岸側での置土の効果と左岸側への寄与の状況についてモニタリングを実施 。 ・ 5号離岸堤下手で継続的な養浜及びモニタリングを実施		
		・相良海岸と一連で、海浜の実状および地域が抱える課題について関係者間で共有し、対応を検討する（浜岡・御前崎・相良海岸の侵食対策に係る勉強会）							

(4) 現状評価と対応方針 (2) 相良海岸
相良海岸の現状評価と対応方針

- 相良海岸では、2019(R1)年台風19号により大きく汀線が後退したが、2022(R4)年～2023(R5)年には相良片浜海岸の汀線は回復傾向にあった。2024(R6)～2025(R7)年は比較的汀線変動が少ない。また、相良須々木海岸南側と相良片浜海岸南側は砂浜が消失した状態が継続している。なお、相良須々木海岸では現況堤防の海側への腹付けにより、海域に突出した防潮堤整備（津波対策）を進めている。
 ⇒御前崎港および相良港からの浚渫土砂を活用した養浜を実施していく。
 ⇒モニタリングを継続し、海浜状況を確認していく。
 ⇒浜岡海岸・御前崎海岸と一連で、海浜の実状及び地域が抱える課題等を関係者間で共有し、対応を検討する。（浜岡・御前崎・相良海岸の侵食対策に係る勉強会）

海岸		相良片浜	相良港海岸 片浜地区	相良港海岸 須々木地区	相良須々木	天竜川東側 御前崎(再掲)	天竜川東側 浜岡(再掲)	
R7	現状 評価	・汀線変動は少ない。南側は砂浜が消失した状態が継続	・汀線変動は少なく、浜幅は狭い状態が継続	・汀線変動は少なく、浜幅は80m以上確保した状態が継続	・汀線変動は少ない。南側は砂浜が消失した状態が継続	・2024年時に比べ2025年時の汀線はやや後退しており、目標浜幅30m以上を維持していない区間がある		
	被害	・確認されず						
対応方針		・御前崎港および相良港からの浚渫土砂を活用した養浜を実施 ・継続的なモニタリングを実施				・養浜箇所の変更を検討し、継続的な養浜を実施 ・漂砂制御施設の整備を検討する		・継続的なモニタリングを実施
		・浜岡海岸・御前崎海岸・相良海岸を一連で、海浜の実状および地域が抱える課題について関係者間で共有し、対応を検討する(浜岡・御前崎・相良海岸の侵食対策に係る勉強会)						

(4) 現状評価と対応方針 (3) 各海岸の対策(2026(令和8)年度)

- ・浜松篠原海岸・浜松五島海岸・竜洋海岸で計画養浜量12万m³/年以上に対し、天竜川河道掘削は6万m³程度を予定しており、掘削土砂の粒径に応じて各海岸への養浜及びストックヤードの造成に使用する予定。
- ・秋葉ダム浚渫土砂は、民間需要との調整もあるが、協定量である1万m³を確保するよう電源開発へ要請していく。
- ・浜名湖等の浚渫土砂は、前年同等量の0.7万m³を確保する予定。
- ・計画養浜量を確保するため、関係者との交渉を重ねるとともに、不足する養浜材は、海岸管理者自ら採取することも考慮し、事業費の確保に努める。

海岸		種別	計画	2025(R7)年度までの実績	2026(R8)年度の対策(予定)	場所
天竜川西側	浜松篠原	養浜	5万m ³ /年以上(目標値)	平均7.8万m ³ /年(2004年~2015年) 平均1.6万m ³ (2021年~2025年)	①5万m ³ 以上(秋葉ダム堆積土砂等)	馬込川導流堤下手
		構造物等	離岸堤新設3基	離岸堤新設3基		
	浜松五島	養浜	3万m ³ /年以上(目標値)	平均1.3万m ³ /年(2012年~2025年)	②3万m ³ 以上(天竜川掘削土砂等)	河口付近
		構造物等	突堤整備1基	汀線付近より陸側190m(完了)	突堤沖側の延伸	
天竜川東側	竜洋	養浜	4万m ³ /年以上(目標値)	平均3.1万m ³ /年(2011年~2025年)	③4万m ³ 以上(天竜川掘削土砂等)	離岸堤群下手
		構造物等	離岸堤嵩下げ5基 離岸堤新設1基	離岸堤嵩下げ4基 離岸堤新設1基	—	
	福田漁港 浅羽	養浜	8万m ³ /年(サトハイクシステムによる土砂移動)	平均3.6万m ³ /年(2013年~2025年)	④サトハイクシステム:8万m ³ (土砂移動量回復に向けたシステム最適化検討、直接養浜)	浅羽海岸西端
	浅羽	養浜	計画なし	平均0.7万m ³ /年(2013年~2025年)	⑤養浜実施(量は未定)	浅羽海岸
	浜岡 御前崎	養浜	計画なし	平均1.1万m ³ /年(2007年~2025年)	⑥養浜実施(マリパーク御前崎浚渫土砂による白羽地区への養浜,量未定)	御前崎海岸 白羽地区

(※)計画養浜量は、既往検討を基に設定した防護上最低限必要な量である。



3. 関連事項報告

(1) 天竜川ダム再編事業について（報告）

【国土交通省中部地方整備局天竜川ダム再編工事事務所】

(2) 気候変動を考慮した海岸保全基本計画の見直しについて
（海岸保全基本計画変更）

【静岡県河川企画課】

- 静岡県では、気候変動に伴う平均海面水位の上昇や波浪特性の変化を考慮して、海岸保全基本計画の見直しを実施中（2026年3月変更予定）
- 海岸保全基本計画の見直しにおいて、『侵食』に関する防護目標が「将来の気候変動の影響によらない侵食に対し（中略）適切な対応を行う」に変更される予定

気候変動への対応

- 気候変動による平均海面の上昇により、水面下に沈む砂浜を保全施設等で制御することは難しいことから、気候変動による平均海面の上昇で生じる汀線の後退については保全の対象としないことを基本とする。
- 上記以外の要因より生じている海岸侵食に対しては、砂浜を保全し、必要に応じて回復を図ることとする。

出典：静岡県海岸保全基本計画 検討委員会(第2回)（令和7年10月10日）説明資料より作成

【防護水準の変更】 遠州灘沿岸海岸保全基本計画第2章（静岡県版） 防護水準〈侵食〉の変更案

現行基本計画記載内容	変更記載内容(案)
<p>〈侵食〉</p> <p>現状の汀線を保全・維持することを基本的な目標とし、侵食が著しい海岸では必要に応じて汀線の回復を図ることを防護水準とする。</p>	<p>〈侵食〉</p> <p>土砂収支の不均衡に起因する汀線後退等、<u>将来の気候変動の影響によらない侵食に対し</u>、予測を重視し、状況に応じた適切な対応を行うことを基本的な防護水準とする。砂浜の保全においては、<u>将来的な気候変動による影響等に関する最新の知見を取り込み、継続的なモニタリングに基づき対策を実施する「順応的砂浜管理」</u>によって対応方針を更新していく仕組みや体制を構築する。</p>

出典：静岡県海岸保全基本計画 検討委員会(第3回)（令和7年12月9日）説明資料より作成